

子どもの発達とプレイセラピー



子どもにかかわる仕事をしていると、「プレイセラピー」を行う機会が多いと思います。しかし、その意義や目的、方法、効果について具体的に知り、体系的に学ぶことのできる機会は、他のカウンセリングや心理療法に比べ非常に限られているのが現状です。そして実際に多くの心理臨床家がそのことを不安に思いつつながら、日々、手探りで子どもたちに接しているのではないのでしょうか。

そうした臨床家の研修機会を少しでも増やしていくため、学派を越えた標準的なプレイセラピーの基礎と実践を学ぶ研修会シリーズを企画していきます。第3回目である今回は、「子どもの発達とプレイセラピー」と題して、アメリカ、そして日本の講師をお招きし、特に0歳から5歳までの発達早期にある子どものプレイセラピーについて、講義や集中的なワークショップを企画します。欧米においても、この分野は注目され始めたばかりの新しい領域で、その重要性が認識されてきたところです。

近年、日本においても、子どもと家庭を取り巻く環境は、社会全体の不安定さとも重なり、危機にさらされています。また、子どもの発達は、最初の環境ともいえる親子の愛着関係が重要な基盤となって促進されることが、脳科学研究や乳幼児研究、発達や教育などのさまざまな領域で発見されてきており、不安定な環境がもたらす子どもへの影響は深刻です。子ども・親子を取り巻く家庭や社会の多様な変化を見据えて、さまざまな視点を柔軟に治療に取り入れつつ、親子の関係形成に重点を置いた発達早期の介入が、これからはますます必要となってくると考えられます。プレイセラピーを学び、行う我々も、個別のプレイセラピーにとどまらず、親子関係や家庭・社会を視点に入れた上で、子どもとかかわることが必要であると、日々臨床現場で感じているのではないのでしょうか。その実践に役立てるため、今回は、発達早期の子どもの発達全般と親子関係を丁寧にアセスメントすることに基づき、プレイセラピーを実践し、国内外でプレイセラピストたちの訓練活動をされている講師陣をお招きします。

プログラム内容は講師の先生方と共に構成いたしました。欧米の標準的訓練と同水準の短期集中プログラムとなります。

主催

日本プレイセラピー協会

ホームページ <http://www.ja4pt.org/>

携帯版ホームページ <http://www.ja4pt.org/i/>

(お申し込みについては、PCよりお願いします。)

お問い合わせは携帯からも可能です。)



後援

米国プレイセラピー協会 (Association for Play Therapy) <http://www.a4pt.org/>

協力

大野木サイコセラピー・カウンセリングクリニック、クリニック川畑、
ファミリーメンタルクリニックまつたに (順不同)

当協会および今回の企画への推薦の言葉

日本プレイセラピー協会は、プレイセラピーに関する、世界でも有数の専門家協会の一つです。同協会は、参加者の皆さんにプレイセラピーの豊かな知見を積極的に紹介し、包括的で最新のトレーニングプログラムを提供しています。同協会は、日本における子どもの心理療法実践をよりレベルの高いものにするための、優れた資源提供の場となっています。

チャールズシェイファー博士、RPT - S

米国プレイセラピー協会共同創設者・名誉理事

子どもたちとのより効果的な対話の方法、そして、心の健康を子どもたちが獲得するための支援方法について、プレイセラピーの継続的な研修機会を提供し、参加してこられた日本プレイセラピー協会、および日本のメンタルヘルスの専門家の皆さま方に心からお祝いを表したいと思います。アメリカの仲間として、米国プレイセラピー協会は、幸運と成功をお祈りしています！

ビルバーンズ

米国プレイセラピー協会 事務局長

日本プレイセラピー協会は、プレイセラピストたちが、子どもや青年クライアントたちに対して効果的な介入を行えるようになるための、質の高いトレーニングプログラムを提供しています。大野木嗣子博士は、講師として毎年貢献され、日本の臨床家にとっての優れた教育資源として働いていらっしゃいます。大野木博士は、文化に配慮した介入を感受性豊かに行うことで国際的に知られており、西洋諸国のプレイセラピストの中でも著名な存在として名を馳せています。ベス・リンバーク博士は、米国のメンタルヘルス領域の中でも、特に現在関心が高まっている0歳から3歳を対象とした領域を専門としており、参加者の皆さんにとって必ずや実践的で有益かつ正確な情報を提供してくださることでしょう。

ジャーニーンシェルビー博士、RPT - S

UCLAロサンゼルス校臨床心理学準教授

2008年日本プレイセラピー協会夏プログラム講師

私はかつて、ある本の中の「乳幼児と家族のためのエコシステムミック・プレイ・セラピー」という章を執筆するにあたって、リンバーク博士と親しくお仕事をさせていただく機会に恵まれたことを、大変うれしく、また光栄に思っております。ベス・リンバーク博士は素晴らしい講師であり、プレイ・セラピストとしてのその豊かな経験と、幼い子どもたちとその家族を相手に培ってきた専門性を、このトレーニングで存分に発揮されることでしょう。ぜひ楽しんで、遊んで、そして、学んでください。

スー・アメン、PhD、RPT-S

ディレクター、乳幼児・未就学児メンタルヘルス認定プログラム

教授、カリフォルニア臨床心理大学院、アライアント国際大学

シンポジウム

発達とプレイセラピー：0 - 5 歳を理解する

0 歳から 5 歳の子どもの発達を理解する際に、重要な視点とはどのようなものでしょうか。また、発達理解をふまえた、発達早期に必要なプレイセラピーとはどのようなものでしょうか。講師の先生方によるそれぞれの臨床的な立場に基づき、発達理解や診断・治療的介入について、シンポジウム形式でお話していただきます。

シンポジストでお話くださる講師陣には、アメリカからは、エコシステムック（子どもを取り巻くさまざまな環境全体を視野に入れた子どものアセスメントと治療計画・介入を行う理論・技法）アプローチの視点を持ちながら、発達早期の親子関係に焦点を当てた介入を積極的に行っている Dr. Beth Limberg（リンバーグ博士）、日本からは、子どもを面接室でのプレイセラピーだけにとどまらず、日常生活における支援が重要であることを長年提案され、統合的な心理療法アプローチを提唱・実践されている村瀬嘉代子先生、また、子どもの問題に合わせて心理治療的介入を組み立てる処方的（プリスク립ティブ）アプローチを提唱・実践されている大野木嗣子先生をお迎えします。

個々の子どもの問題に合わせた親子関係のアセスメントと介入、日米での子育て支援の現状など、発達早期の子どもの理解と介入などについて、参加者の皆さんが理解を深める機会となることが期待されます。

日時：2009年8月2日(日) 午前10時～午後4時30分（開場：午前9時30分）

*途中12時から1時まではお昼休憩となります。

参加費：11,000円

定員：150名

対象：心理・教育・保育・医療・看護・福祉の専門家および大学院・大学・短大・専門学校生で、プレイセラピーや子どもの治療に関心のある方

会場：南青山会館(地下鉄表参道駅から徒歩5分)

- * 参加ご希望の方で、先生方に聞いてみたいと思う質問などがある方は、予め申し込み時に事務局あてにぜひお送りください。当日のお話の中でお答えいただけるようにしたいと思います。
- * また、当講座は、集中講座1日目を兼ねます。集中講座にご参加の方はお申し込み不要です。

プレイセラピー応用講座

幼い子どものプレイセラピー実践事例から学ぶ

2人の講師の先生方に、先生方ご自身の、幼い子どもを対象としたプレイセラピー事例をそれぞれ提示していただき、事例を通して、幼い子どもの発達のアセスメント・親子関係のアセスメント・治療計画の立て方・治療の実際を解説していただきます。異なる立場の先生方が、どのように幼い子どもを理解し、いかにプレイセラピーを組み立てるのかを比較することのできる、大変興味深い講座となると思います。

日時 : 2009年8月9日(日) 午前10時~午後3時半

*途中12時から1時半はお昼休憩となります。

開場 : 午前9時30分

参加費 : 11,000円

定員 : 100名

対象 : 心理・教育・保育・医療・看護・福祉の専門家および大学院生で、
プレイセラピーおよび子どもの治療に関心があり、また守秘を守れる方。

会場 : こどもの城(地下鉄表参道駅から徒歩8分)

内容 : 講師による、0から5歳のプレイセラピー事例の提示とその解説

講師 : ベス・リンバーグ先生、大野木嗣子先生

* APT 研修証明書発行対象プログラムです

プレイセラピー集中プログラム

プレイセラピー集中講座 (5日間)

プレイセラピー集中講座では、プレイセラピーの様々な理論・技法とそれらを統合させた展開の仕方を、5日間のシリーズで集中的に学びます。

講義と演習、また事例スーパービジョンを通して、参加者1人ひとりの課題を明確にすることができるのと同時に、学習したことの定着をはかることをねらいとします。欧米では、認定プレイセラピストになるためには修士卒業レベルであることに加え、一定の訓練課程が必要とされています。講師の先生方はその訓練教育をする有資格者であるため、ほんの一部ではありますが、その訓練課程と同等のものを学ぶ機会ともなります。

日時：2009年8月2日(日) 午前10時～午後4時30分

2009年8月3日(月)・4日(火)・7日(金)・8日(土) 午前10時～午後5時

開場：午前9時30分

参加費：105,000円

定員：26名

対象：心理・教育・保育・医療・看護・福祉の専門家および大学院生で、
プレイセラピーや子どもの治療に携わっているか訓練中の方、かつ5日間参加可能な方。

会場：8月2日：南青山会館(地下鉄表参道駅から徒歩5分)

8月3日～8日：南青山カンファレンスルーム(地下鉄表参道駅B1出口より徒歩約10分)

内容：8月2日：シンポジウム「発達とプレイセラピー(2日目以降の講座の基礎となります)」

8月3日・4日：

「幼い子どものエコシステムミックプレイセラピー：ケースの理解と介入の組み立て」

「幼い子どもの発達のアセスメント」

「親子関係のアセスメント」

8月7日・8月8日：

「幼い子どもへの処方的(プリスク립ティブ)プレイセラピー」

「参加者の事例スーパービジョン(1～2事例)」

講師：ベス・リンバーク先生、大野木嗣子先生

* APT 研修証明書発行対象プログラムです

* 集中講座1日目は、シンポジウム「発達とプレイセラピー」へのご参加となります。重ねての申し込みは不要です。

* 事例提供者を募集します

ご参加される専門家の方で、発達早期の子ども(0-5歳)のプレイセラピー・フィリアルセラピー事例を提供してくださる方を募集します。ご希望の方は、事例の概要をA4用紙1枚以内で2009年6月2日までに事務局あてに、メールまたはファックスでお送りください。スーパーバイザーと共に審議し、発表事例を決定の上、6月13日までにこちらよりご連絡いたします。事例の概要には、以下のことを含みます(事例の性別と年齢、頻度や時間などの構造、主訴の概要、プレイセラピー・フィリアルセラピーでの目標や経過、検討したいポイント、発表者=治療者の性別)。

集中講座 懇親会のお知らせ

集中講座にご参加の方々と、講師の先生方との懇親会を開催します。
ふるってご参加ください。

日時 : 8月2日(日曜日) 午後5時30分~7時30分
会場 : THE CAMEL 西麻布(表参道駅より徒歩20分、外苑前駅より徒歩10分)
会費 : 4000円(プログラム申し込み時に参加希望の旨をお知らせの上、
参加費をお振り込みください)

講師紹介

Beth Limberg, Ph.D. ベス・リンバーク先生

カリフォルニア・スクール・オブ・プロフェッショナル・サイコロジーにてPh.D.取得。現在、アライアント国際大学(カリフォルニア州サクラメント)において、臨床心理学博士課程準教授、同大学幼児 未就学児メンタルヘルス認定プログラム教員でもある。また、児童虐待防止委員会(カリフォルニア州)の幼児メンタルヘルス顧問、0to3(0歳から3歳まで: 幼児の健康な発達・発育を目指し、親や専門家に教育訓練を行うアメリカの特定非営利団体)トレーナー指導、プレイセラピーコンサルテーション&トレーニング(カリフォルニア州サクラメント)においてプレイセラピーコンサルタント・トレーナーなどを務める。

エコシステム理論・技法アプローチによるプレイセラピーを専門とし、特に幼少期(0歳から5歳)の子どもの発達診断・親子関係アセスメントおよび介入に力を注ぎ、幼少期の子どもの臨床実践・国内外での専門家の訓練・プログラム開発などに多くかかわってきている。

幼少期の子どもの発達と臨床実践に関する執筆には以下のものがある。

“Play therapy with preschoolers using the ecosystemic model” in K.Finello 編 The handbook of training & practice in infant & preschool mental health, Jossey Bass, 2005

“Ecosystemic play therapy with infants, toddlers, & their families” in C. Schaefer, J. McCormick, & A. Ohnogi 編 Play therapy for very young children, Rowman & Littlefield, 2008

大野木 嗣子先生, Psy.D.

カリフォルニア・スクール・オブ・プロフェッショナル・サイコロジー(サンディエゴ)臨床心理学博士号取得。現在東京都港区で開業、国際基督教大学にてプレイセラピーの客員講師。日本プレイセラピー協会共同創設者・理事、International Mental Health Professionals Japan(IMHPJ)理事、Nana's Children Mental Health Foundation 顧問などを務める。

子ども、家族、プレイセラピー、子育て支援や多文化的問題を専門とし、ワークショップやセミナーも多数開催している。

平成16年のスリランカの津波の災害時にOperation USAと米国プレイセラピー協会の支援の下で直接的な援助をおこなう。幼少時期と大人になってからも日本とアメリカ両方で過ごしたため、完全なるバイリンガ

ル、バイカルチュラルでもある。編著などには以下がある。

“International Handbook of Play Therapy” Charles Schaefer, Ph.D., Akiko Ohnogi, Psy.D., and Judy McCormick, M.A., Eds., Rowan&Littlefield ,2005

“Play based psychological interventions with traumatized children: Work with tsunami orphaned Sri Lankan children. International Journal of Counseling and Psychotherapy, Vol 4, 2006

“Play Therapy and Safe Space” International Journal of Counseling and Psychotherapy, vol. 5、2007

“Play Therapy for the Very Young” Charles Schaefer, Ph.D., Phronsie Kelly-Zion,MA., Judy McCormick, M.A., and Akiko Ohnogi, Psy.D., Eds. Rowan&Littlefield, 2008

《特別講師》

村瀬嘉代子先生, Ph.D.

奈良女子大学文学部心理学科卒、家庭裁判所調査官(補)、カリフォルニア大学大学院バークレイ校留学、最高裁家庭局家庭裁判所調査官研修所研究員、大正大学教授を経て、大正大学名誉教授、北翔大学大学院教授、文学博士、臨床心理士、日本臨床心理士会会長。

子どもと家族への臨床心理学的援助、統合的心理療法、重複聴覚障害者や養護児童への臨床心理的援助を中心とする実践・研究に携わってきた。また20年以上前に統合的なプレイセラピーのアプローチを提唱している。著書は以下のものなど多数。

『心理療法の基本 -日常臨床のために-』共著(金剛出版、2000)

『柔らかなこころ、静かな想い -心理臨床を支えるもの-』(創元社、2000)

『児童虐待への心理学的アプローチ』(エデュケーション、2000)

『子どもと家族への統合的心理療法』(金剛出版、2001)

『子どもの福祉とこころ』監修(新曜社、2002)

『「生の意味」が問われるときに』(『大正大学カウンセリング研究所紀要』26号、2003)

『統合的心理療法の考え方』(金剛出版、2003)

『心理療法とは何か』(金剛出版、2004)

『カール・ロジャーズ』共編著(日本評論社、2004)

『すべてをこころの糧に』共編著(金剛出版、2004)

『聴覚障害者への統合的アプローチ』(日本評論社、2005)

『心理臨床という営み』(金剛出版、2006)

『統合的心理臨床への招待』共著(ミネルヴァ書房、2007)

『心理療法と生活事象 クライアントを支えるということ』(金剛出版、2008)

研修証明書発行

米国プレイセラピー協会の研修証明書発行について

- APT approved provider 08 - 225 -

プレイセラピー応用講座、集中プログラムの参加者で、ご希望の方には、米国プレイセラピー協会(Association for Play Therapy)の研修証明書を発行することができます。認定プレイセラピストの資格を取得する際に必要研修時間として認められます。発行手数料は3000円です。申し込み時に要・不要を記入し、要の方はお振り込み金額合計に3000円(参加プログラムがいくつであっても3000円)をご加算ください。

お申込み方法（全プログラム共通）

WEBよりお申込みください。当会ホームページ（<http://www.ja4pt.org/>）の「研修会案内」「WEB申込み」より必要事項をご記入・ご送信ください。ご入力メールアドレスにお間違いがありますとこちらからの返信ができなくなりますので、ご注意ください。*携帯非対応のため、PCからご利用ください。

- * WEBフォームが何らかの事情によりお使いになれない場合、FAXまたはメールによるお申込みが可能ですのでご利用ください。その場合、下記の必要事項をもちろんご記入の上、当会までお送りください。

FAX：042-759-6199

（青山学院大学学生相談センター内 日本プレイセラピー協会事務局宛）

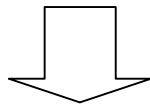
メール：play_therapy@nifty.com

（日本プレイセラピー協会事務局）

FAXまたはメールでお申し込み際の必要事項（WEB申込の方は次の項目へお進みください）

【氏名、ふりがな、性別、連絡先住所、電話、FAX、メールアドレス（携帯メール不可）、所属、職種、最終学歴（大学名・大学院名等）、心理臨床経験年数、プレイセラピー臨床経験年数、参加希望プログラム（複数可）、お申し込みプログラムの各料金（申込日によって料金が異なります）（発行希望の場合）研修証明書発行希望の旨、（参加希望の場合）懇親会参加希望の旨、合計金額、（お振込み時の口座名義がお申込者名と異なる場合）口座名義人氏名、（臨床心理士資格をお持ちの場合）臨床心理士番号、当研修会をお知りになったきっかけについて、（今後当会の案内をとくに希望されない場合）「不要」の旨】

*メールアドレスをお持ちでない場合には、FAX番号を必ずご記入ください。



当会にてお申し込み内容を確認後、受講可能な場合には振込先を明記した「お申し込み受付」（仮受付）メール（またはFAX）をお送りいたしますので、ご確認の上ご入金ください。ご入金確認までができましたところで正式受付となります。

* 昨年までの口座とは異なりますので、昨年ご受講いただいた方は特にご注意ください。

- * ご入金後、開講1ヶ月前をめぐりに、「受講証」（会場案内図も掲載）と領収書を、ご連絡先住所へ郵送させていただきます。ただし不備がある場合は直ちにご連絡をいたします。「受講証」が届くまでは、振込み控えを保管してください。
- * 正式受付の先着にて定員になり次第、締め切り前でも締め切らせていただく場合があります。お振り込み後のキャンセル・返金はいたしかねますのでご了承ください。万が一都合が悪くなった場合に、代理の方にお越しいただくことはできます（その場合ご一報ください）。
- * 締め切り： 7月10日（必着）

- * しばらくお待ちいただいてもこちらからの「お申し込み受付」(メールまたはFAX)および「受講証」(郵送)が未着の場合には、通信障害や郵送事故の可能性もありますので、その場合はお手数ですが事務局までお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- * お預かりした個人情報は、プログラムおよび当協会の運営以外の目的で使用することはありません。

お問い合わせ

- ・ 当会ホームページ (<http://www.ja4pt.org/>) お問い合わせフォームより事務局までご連絡ください。
メール、FAXにてお問い合わせいただく際は、下記までお願いいたします。
事務局メールアドレス : play_therapy@nifty.com (日本プレイセラピー協会事務局宛)
事務局FAX : 042 - 759 - 6199
(青山学院大学学生相談センター内日本プレイセラピー協会事務局宛)

当協会はNPO法人化をめざしています。当協会の活動については、個人・団体・企業の皆様のご寄付・ご支援などにより活動が維持されています。ご支援くださった方には、今後当協会企画のご案内をさせていただきます。詳しくは、当会ホームページ (<http://www.ja4pt.org/>) お問い合わせフォーム、メール、FAX等により、事務局までご連絡ください。



日本プレイセラピー協会

～ Japan Association for Play Therapy ～
について



* 日本プレイセラピー協会とは？

子どもたちの遊びの世界のもっている力がより尊重され、子どもたちに役立つプレイセラピーがますます社会に認知され生かされることを願い、2002年に設立された非営利団体です。遊びの力について、有効で適切なプレイセラピーのアプローチについて、子育てに役立つ様々なことなどについて、研究や広報、研修会活動を主な活動としています。

* どのような人を対象にしていますか？

乳幼児・児童・青年の心理的支援を目的に心理・教育・保育・医療・看護・福祉などに携わる臨床心理士等心理カウンセラー、学校や幼稚園の教職員、保育士、医師、看護師、福祉従事者などの専門家、および乳幼児・児童・青年を育てる保護者、その他プレイセラピーや児童心理療法に興味・関心のあるすべての人を対象にしています。

* どのような活動を行っていますか？

プレイセラピーという児童心理療法や、児童心理学、発達心理学、臨床心理学を研究し、子どもたちが生き生きと生活・成長できるための具体的で適切な方法の開発をめざしています。そしてその蓄積を社会に伝え、社会全体で子どもたちを暖かく適切に見守り育てることができるよう、広報活動や研修会開催等の活動を行っています。2007年より、海外・国内の優秀な講師を招聘し、質の高い研修機会をめざした研修会企画を数々提供しています。



子どもにとっての遊び（プレイ）

時代を越えて、また国や文化を越えて、子どもたちはみな自然に遊びます。遊びは、子どもたちが気持ちや考えを表現するもっとも自然なものです。大人たちが言葉を使うのと同じように子どもは遊びを言語として用います。子どもたちは遊びに没頭し、遊びにたくさんのエネルギーや感情を注ぎます。

遊びは子どもにとって、感情の発散はもちろん、コミュニケーションの手段でもありますし、自分のおかれた環境や不安の克服、課題を理解するための手段でもあります。また創造性や問題解決能力を育てるものでもあります。遊びの持つ力をぜひ実感してください。そして子どもの遊びをぜひ尊重しましょう。

プレイセラピーとは？

プレイセラピー（遊戯療法）とは、子どもとセラピスト（治療者）の適切で特別な対人関係の中で、受容や承認、制限のある安心・安全な環境と遊び道具を通して、子どもが自分の気持ちや考えや行動を表現し探索するのを、プレイセラピストという大人が促進し手伝うものです。

プレイセラピーには、来談者中心、精神分析的、認知-行動的、ナラティブなど、さまざまなアプローチがありますが、子どもの発達段階やニーズ（必要）にあわせて、柔軟で最適なアプローチをする力がセラピストには求められています。

日本プレイセラピー協会スタッフ

代表：湯野 貴子（ファミリーメンタルクリニックまつたに、臨床心理士）

副代表（兼事務局長）：葛生 聡（青山学院大学、臨床心理士）

理事：大野木 嗣子（ドクター大野木サイコセラピー・カウンセリングクリニック、臨床心理学博士）

理事：清田 真由美（臨床心理士）

監事：井上 直子（桜美林大学准教授、臨床心理士）

日本プレイセラピー協会 顧問

顧問：村瀬 嘉代子（大正大学名誉教授、北翔大学大学院教授、日本臨床心理士会会長、臨床心理士）

顧問：Ann Cattanach, Ph.D【アン・カタナック】（スコットランドにて開業、ヨーク大学客員講師）

顧問：Judith J. McCormick, M.Ed【ジュディス J. マコーミック】（アイルランドにて従事）